

問1 青年期は、子どもとしての保護された世界から離脱しつつも、未だ大人の社会に完全には受け入れられていない過渡期にあたる。このような、二つの異なる社会集団の境界に位置することで心理的な葛藤や不安定さを抱える青年の状態を「境界人（マージナル・マン）」と名付けた、ドイツ出身の心理学者は誰か。（2008年 全国公立入試 類似）

1. レヴィン 2. オルポート 3. エリクソン 4. ルソー

問2 アメリカの文化人類学者ルース・ベネディクトは、第二次世界大戦中の日本研究をもとに著書『菊と刀』を著した。彼女はこの中で、西洋の「罪の文化」が個人の内面的な良心を基準にするのに対し、他者や世間からの評価や非難を意識して自らの行動を律する日本文化の特質を何と呼んだか。（2022年 全国公立入試 類似）

1. 罪の文化 2. 恥の文化 3. 和の精神 4. タテ社会

問3 医療技術の進歩や患者の権利意識の高まりを背景に、従来の医師主導の医療から、患者の自己決定を尊重する医療への転換が進んでいる。このうち、医師が病状や治療方針について適切な説明を行い、患者がそれを十分に理解した上で、自らの意思で治療に同意・選択することを何というか。（2022年 全国公立入試 類似）

1. リビング・ウィル 2. デザイナー・ベビー 3. インフォームド・コンセント 4. クオリティ・オブ・ライフ

問4 欲求不満が生じた際、無意識のうちに自己を守ろうとする防衛機制のなかで、「好きな異性に対して、自分の好意を隠すために、わざと意地悪く接したり冷たい態度をとったりする」というように、本心とは正反対の態度を強調してとる行動パターンに該当するものを何というか。（2005年 全国公立入試 類似）

1. 退行 2. 昇華 3. 反動形成 4. 同一化

問5 人間の精神構造を、本能的欲求の領域、道徳的良心や社会規範の領域、そして現実原則に従って両者を調整する領域の3つに分類し、それらの不調和から生じる精神的危機に対処するために無意識のうちに働く心理的メカニズム（防衛機制）を提唱した、オーストリアの精神医学者は誰か。（2021年 全国公立入試 類似）

1. アドラー 2. クライン 3.フロイト 4. ホルナイ

問6 19世紀のヨーロッパにおいて、自らの社会の文明化の度合いを基準としてアジアやアフリカの文化を「遅れたもの」と評価し、自らの文化が他よりも優れているとみなして植民地支配を正当化したような、自らの属する集団の文化を基準に他文化を評価する態度を何というか。（2026年 全国公立入試 類似）

1. マルチカルチュラリズム 2. アシミレーション 3. エスノセントリズム 4. アカルチュレーション

問7 現代の生命倫理において、治癒の見込みがない病に冒され、耐え難い苦痛の中にある患者の自発的な要請に基づき、医師が致死薬を投与するなどして人為的に死を早める行為を何というか。なお、この行為はオランダやベルギーなど一部の国において、厳格な要件のもとで法的に容認されている。（2024年 全国公立入試 類似）

1. 間接的安楽死 2. 医師補助自殺 3. 消極的安楽死 4. 積極的安楽死

問8 現代社会の諸課題を追究する際、収集したデータを適切に表現することが求められる。例えば、ある国におけるエネルギー源別の発電電力量の割合など、全体に対する各内訳の構成比率を視覚的にわかりやすく表現するのに最も適したグラフの名称を答えよ。（2014年 全国公立入試 類似）

1. 円グラフ 2. 帯グラフ 3. 棒グラフ 4. 面グラフ

問9 日常生活における具体的な経験や、そこで生じる問題への対処を思考の出発点とし、たえざる経験の再構成を通じて知性を高めていくことを重視した。行動や実践を通じて真理を探究するプラグマティズムを大成し、民主主義社会の発展には教育が不可欠であると説いたアメリカの哲学者は誰か。（2022年 全国公立入試 類似）

1. デューイ 2. パース 3. ジェームズ 4. ローティ

答え合わせ・解説 No.1

問1	答え 1 レヴィン	ドイツ出身の心理学者であるレヴィンは、子どもから大人へと移行する過渡期にある青年が、双方の社会集団の境界に位置することから生じる心理的葛藤や不安定さを「境界人（マージナル・マン）」という概念で説明した。
問2	答え 2 恥の文化	ルース・ベネディクトは、日本人の行動規範を分析する中で、内面的な罪の意識（良心）よりも、世間体や他者からの非難を恐れる心理が強く働く点に着目し、これを「恥の文化」と名付けた。これに対し、キリスト教的な絶対神に対する内面的な罪悪感を基準とする西洋の文化を「罪の文化」と位置づけた。
問3	答え 3 インフォームド・コンセント	医療の現場において、患者の自己決定権を保障するために不可欠とされる手続きである。医師が専門的な知見に基づいて病状や治療内容、代替案、リスクなどを分かりやすく説明し、患者がそれを納得して自発的に同意・選択することを指す。これに類する概念として、尊厳死の意思表示であるリビング・ウィルや、性と生殖に関する権利であるリプロダクティブ・ヘルス/ライツなどがあるが、医師による説明と患者の同意に基づくものはインフォームド・コンセントである。
問4	答え 3 反動形成	自分の本心（好意など）を抑圧し、それとは正反対の態度（冷淡さや敵意など）を強調して表出させる防衛機制を反動形成と呼ぶ。これは、受け入れがたい欲求が意識にのぼるのを防ぐための無意識的な心の働きである。
問5	答え 3 フロイト	無意識の領域に着目し、精神分析学を創始したオーストリアの精神医学者である。彼は、人間の精神を本能的欲求である「エス（イド）」、道徳的良心である「超自我」、そして現実原則に従って両者を調整する「自我」の3つの領域に分けた。自我がエスと超自我の葛藤を調整しきれなくなった際に、不安を和らげるために無意識に働く心理的適応の仕組みを防衛機制と呼んだ。
問6	答え 3 エスノセントリズム	自文化を基準に他文化を評価し、自らの文化の優位性を信じる態度はエスノセントリズム（自民族中心主義）と呼ばれる。歴史的には、帝国主義時代におけるヨーロッパ諸国による植民地支配の正当化などにこの態度が見られた。これに対比される概念として、すべての文化に独自の価値を認める文化相対主義がある。
問7	答え 4 積極的安楽死	患者本人の明確な意思（要請）に基づき、医師などの第三者が致死薬の投与といった手段を用いて人為的に死をもたらす行為を指す。延命治療を中止して自然な死を迎えさせる尊厳死（消極的安楽死）とは区別される。世界には、厳格な手続きを経ることを条件に、この行為を合法化している国や地域も存在する。
問8	答え 2 帯グラフ	全体に対する各項目の割合（構成比率）を視覚的に示すためには、1本の帯をパーセンテージで分割して表すグラフが最も適している。時系列の変化を示すには折れ線グラフ、複数の評価項目を比較するにはレーダーチャートが用いられる。
問9	答え 1 デューイ	日常の経験を出発点として、直面する課題を解決するために知性を働かせること（創造的知性）の重要性を説いたのはデューイである。彼は、知識を固定的なものとせず、環境に適応し経験を再構成するための『道具』として捉える道具主義を提唱した。日々の暮らしの中のありふれた経験を批判的に捉え直し、思考を深めるプロセスは、彼のプラグマティズム思想の核心をなしている。